

**お世話になりました～持久走大会**

11月25日(木)に開催した持久走大会には、多くの保護者の皆様にお越しいただきありがとうございました。たくさんの声援を受けた子どもたちは、練習のときよりも張り切って走っていました。また、校外コースの安全誘導にご協力いただきましたPTA役員の皆様にはたいへんお世話になりました。お陰様で、事故もなく無事に終了することができました。走路周辺にお住まいの皆様には、試走から本番までの長い期間、ご理解とご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

保護者・地域の皆様方のお陰で行事を実施することができるといことを実感した大会でした。ありがとうございました。

**ボランティア**

西小学校は地域の方々様々の様々なボランティア活動に支えられています。PTA活動、登下校時の見守り活動、あいさつ運動、学習ボランティアや読み聞かせ、見学の受け入れ等々、ここに書き尽くせません。感謝の気持ちでいっぱいです。本校の子どもたちも「ペットボトルキャップを集めてワクチンを送ろう」などのボランティア活動をしています。ということで、今回はボランティアについて、私の考えを述べたいと思います。

「ボランティア活動は自発的な活動である。したがって、学校で一斉にとりあげるのは趣旨に反する」という考え方があります。はたしてそうでしょうか。

小さな子どもたちが自発的に活動する、こんなことはあまり期待できないと思います。やはり、教えてあげる機会、場をつくらないと。そんなふう考えるんです。場づくりとか呼びかけ(誘い)は、大人の大事な役目だと思います。

ずいぶん前になりますが、「ちょボラ」という言葉がはまりました。AC(公共広告機構)が提唱したキャッチフレーズで、「ちょっとしたボランティア」の略語です。ボランティア団体に入って活動をするとか、被災地に行つてボランティア活動をするとかの大がかりなものではなくて、日常の中でできるちょっとしたボランティアをすすめるものです。

たとえば、バスの中でお年寄りに席を譲る、ゴミ箱のまわりに落ちていたゴミを拾ってゴミ箱に入れる、トイレのスリッパを並べる、車いすの方に道を空けるなど、日常生活のいたるところにちょボラの機会はあります。そういう機会をとらえて、「やろうよ」と子どもを誘ったり、大人がやって見せたりすることで、子どものボランティア意識が高まっていくと思うんです。そして、小さなボランティアであっても、「ありがとう」とか「〇〇ちゃんのおかげで明るい気持ちになれたよ」と認めてあげることで、子どもは「自分も社会の役に立ってるんだ」ということに気づきます。これは、最近よく耳にする「自己有用感」や「自尊感情」を育むことにつながると考えます。

**ご寄贈いただきました**

☆錦町商工会女性部の皆様から、竹ぼうきをいただきました。(11/5)手作りの丈夫なぼうきを6本です。さっそく清掃活動に使わせていただいています。

☆JAKま茶業部会様から、町内全小中学校にお茶(葉)をいただきました。(11/26)

お茶に含まれるエピガロカテキンガレート(EGCG)という物質は、他のカテキン類に比べて高い抗ウイルス活性を示すとのことです。お茶の飲用やうがいによる感染抑制への活用が期待されます。

**12月の主な行事予定**

- 1日(水)・2日(木) 3～6年県学力調査
- 1日(水)・2日(木)・3日(金) 諸費納入日
- 3日(金) 授業参観・懇談会 1年ファミリー給食
- 6日(月) 委員会活動、5・6年町英語発表大会
- 6日(月)～17日(金) 人権週間
- 7日(火) 学校運営協議会 花の宅配便打合せ
- 8日(水) スクールカウンセラー来校日
- 10日(金) 人権集会
- 15日(水) 花の宅配便
- 22日(水) 分館集会
- 24日(金) 終業式
- 25日(土)～冬季休業日

★本校のホームページの「学校生活」で、学校の様子を紹介しています。ときどきのぞいて見てください。